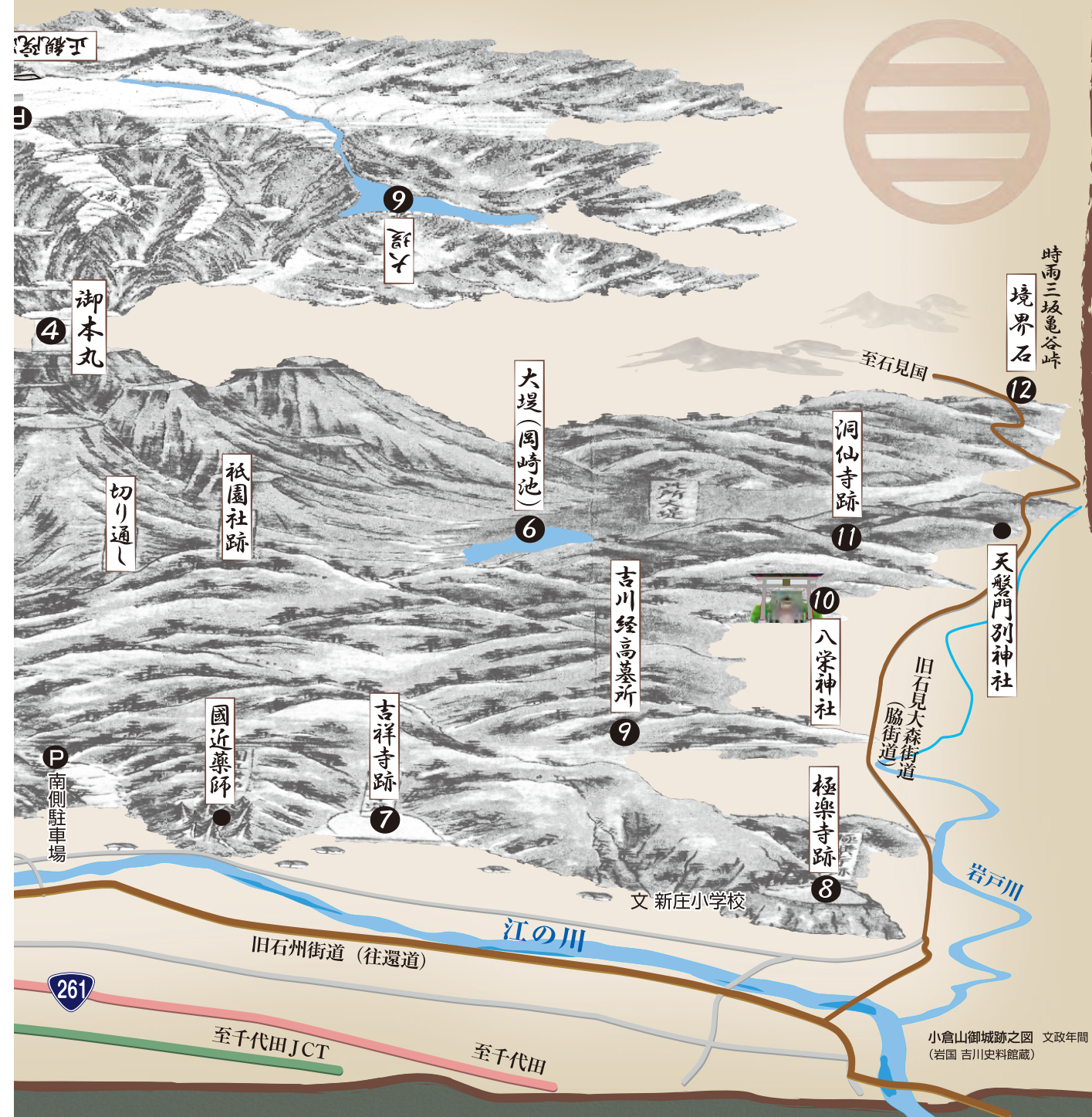


吉川氏ゆかりの地

北玄島の郷

を訪ねて

吉川氏史跡散策マップ



時雨三坂龜谷峠
境界石 12

至石見国

天鑿門別神社

旧石見大森街道
(脇街道)

岩戸川

小倉山御城跡之図 文政年間
(岩国 吉川史料館蔵)

洞仙寺跡 11

八栄神社 10

極楽寺跡 8

吉川経高墓所 9

文 新庄小学校

大堤(岡崎池) 6

吉祥寺跡 7

大堤 9

祇園社跡

國近薬師

御本丸 4

切り通し

P 南側駐車場

旧石州街道 (往還道)

261

至千代田JCT

至千代田

正観堂

9

アクセスマップ



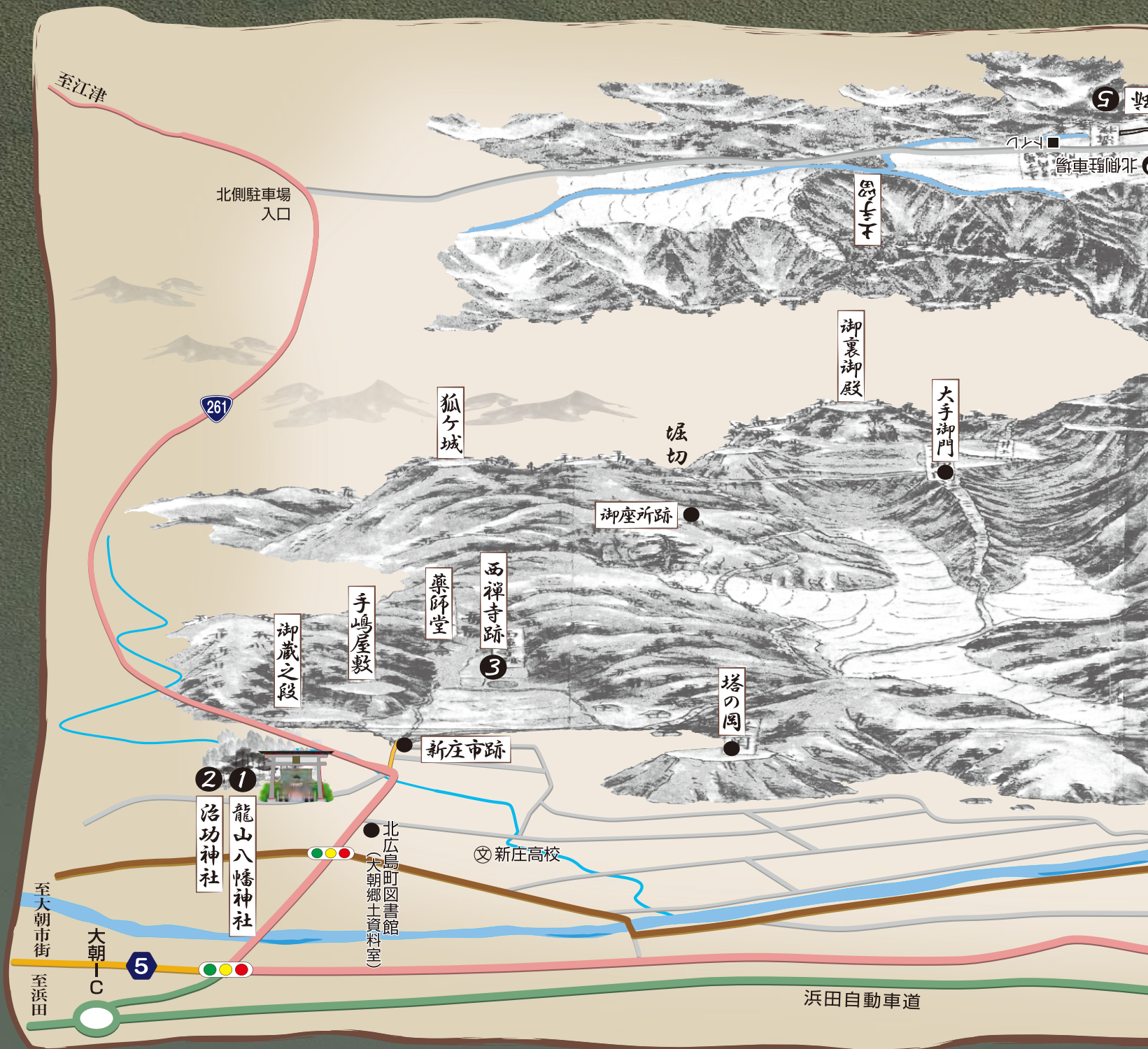
大朝へのアクセス

- 自家用車…広島市内から約 1 時間
松江から約 2 時間
福岡から約 4 時間
- 高速バス…広島バスセンターから
大朝ICまで約 1 時間 10 分

お問い合わせ

(一般社団法人) 北広島町観光協会

広島県山県郡北広島町有田 1122
(道の駅舞ロードIC 千代田管理棟内)
TEL:0826-72-6908
IP 電話 :050-5812-6908
E-mail:kankou@khiro.jp



はじめに

吉川氏は、駿河国（静岡県）の吉川経光が承久の乱で安芸国大朝本庄の地頭職を得ることに始まり、正和（二）三二三年、経高の時代大朝本庄に移りました。吉川氏一族はこの地で勢力を拡大し、十五世紀前半には石見国に本拠を置いていた吉川経見が惣領家を継いで、新庄の小倉山城を築いて本拠としました。十五世紀後半の吉川経基は応仁の乱で軍功があり、勇猛な武将（鬼吉川・まな板吉川）として知られました。経基は山県郡東南部（現北広島町千代田地域）に勢力を拡大して、毛利氏や安芸・石見の武将との関係を強めました。

① たつやまはちまんじんじゃほんてん 龍山八幡神社本殿 (国重文)

小倉山城跡の南西にあり、吉川氏の守護神駿河八幡を奉安した神社で、駿河八幡宮と呼ばれていました。現在の本殿は、永禄元（一五五〇）年、吉川元春が再建したもので、内陣の柱に「此宮永禄元年戊午歳建申候 珍融（花押）」の墨書銘があります。三間社流れ造り銅板葺き。県下では最島神社に次ぐ古い神社建物といわれ、この神社に關わる地名、修理免・供免などの地名が今も残っています。



② たつやまはちまんじんじゃ ちこうじんじゃ 龍山八幡神社(右) 治功神社(左)

龍山八幡神社の境内にあります。天文十九（一五五〇）年、安芸国深川（現広島市安佐北区）で殺害された吉川興経と妻（法名相庭了意、実子千法師を祀ったもので、元亀四（一五七三）年吉川元春・元長父子によって創建され、はじめ「光大明神」と号しましたが、明治維新に治功神社に神名改称されました。現在の建造物は安永九（一七九〇）年の岩国藩主吉川経倫の再建によるものです。

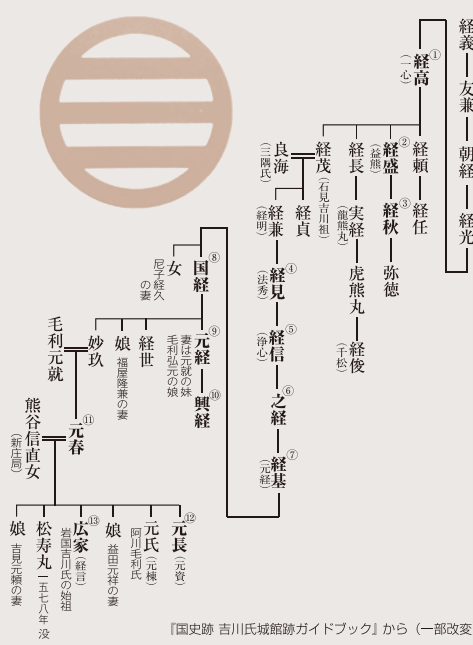


④ おくらやまじょうあと 小倉山城跡 (国史跡)

小倉山城は十五世紀前半、石見国に本拠を置いていた吉川経見によって築かれ、天文十五（一五四六）年に吉川興経によつて日山城に移るまで、約百七十年にわたり吉川氏の本城とされた山城です。城は建物などがあつた御本丸・御裏御殿・狐ヶ城と呼ばれる平坦地（郭）や、堀切・土塁などの防御施設によつて構成されています。



吉川氏略系図



『国史跡 吉川氏城跡ガイドブック』から (一部改変)

③ さいぜんじあと 西禅寺跡 (国史跡)

小倉山城の南西に位置する吉川氏の菩提寺。開山は吉川経兼（経見の父）といわれ、正観院・白頼寺・成宝院など多くの末寺を擁していたとされます。天文十一（一五四〇）年、大内氏が尼子氏攻撃に向かった際に大内義隆やその家臣が宿陣しています。吉川氏が岩国移封後廃寺となり、現在寺跡は水田化し、寺領が六町歩もあつた昔日の面影はうかがえません。西側に「西禅寺の華師さん」と呼ばれる小堂が残っています。



⑤ しょうがんいんあと 正観院跡

正観院は小倉山城の北側、字下松花院の谷間にあり、このあたりを「寺が迫」といいます。寺跡は当時の面影はなく約二〇アールの田地になって、北側に庭池と思われる濠があります。堂宇跡や古墓があつたと伝えられていますが、今ではそれらしき平坦地を確認できるのみです。吉川・経の菩提寺跡で、経基の嫡男国経の時代には、西禅寺の末寺になっていました。



十六世紀前半になり、山県表（現北広島町千代田地域）の領有をめぐる東隣の高田郡（現安芸高田市）を本拠とする毛利氏と対立するようになった吉川興経は、本拠を小倉山城から日山（火野山）城へ移し、城を整備しました。興経は、親毛利方（家臣による反逆により当主の座を追われ、吉川氏の系譜は断絶します。かわつて吉川氏を相続したのが毛利元就の二男元春で、天文十九（一五五〇）年、日山城へ入り、戦国大名として領地を拡大していきます。

天正十九（一五九二）年、元春の三男吉川広家は豊臣秀吉の命により出雲富田城（島根県安来市広瀬町）に配置換えとなり、吉川氏はこの地を離れました。慶長五（一六〇〇）年、関が原の戦いの後、岩国へ移ります。

12 境界石 (時雨三坂亀谷峠)



国境(安芸国広島城下と天領大森銀山とを結んだ脇街道)の時雨三坂亀谷峠に建てられました。天保三(一八三二)年に藩命を受けて建て替えられ、古石は北広島町図書館内、郷土資料室に展示してあります。

10 八栄神社 (元中宮八幡宮)



勅請年不詳、しかし天正十一(一五八四)年、吉川元春・元長父子により再建。その後宝永六(一七〇四)年に再建があり、今は元春・元長父子により再建の社殿はこれを見ない。八栄神社は元中宮八幡宮。明治四十二(一九〇九)年村内平田八幡神社と本谷の弥栄神社を合祀し、翌年現社名に改称。今、石段の両脇にそびえる大松が当社の古さを物語っています。

8 極楽寺跡



極楽寺跡は小倉山城の東側、小字極楽之鼻にあり、文政二(一八一九)年の『国郡志下調査出帳』には「極楽寺跡畠に成、尤、経塚少々残、経石有り」とあり、明治四十二(一九〇九)年の調査では「(寺跡の)左側に古墓数個あり、また経墓と称するものがあり、長石の三層にて伝説に本寺を解いたとき、その経本を納めたるものなり」と誌されました。里伝では当寺院は岩国に移り、岩国極楽寺になったと伝わっています。

6 大堤 (岡崎池)



小倉山の北および北東側に土塁の跡や岡崎池があり、有事に堰き止めるためと思われる濠跡が残り、岡崎池もその名残と思われる。この池には珍しい菱が自生し、この地域ではこの菱の実を時菱として使うためにあったと伝えられています。

吉川氏関連史跡



11 洞仙寺跡 (国史跡)



吉川家の菩提寺。山号を「盤目山」、寺号を「洞仙寺」という禅宗寺院跡がある。開山は無間禪師、開基は経信時代で七代経基、八代国経、九代元経をも葬ったと伝わる。特に七代経基が「元亨釈書」を自ら筆写し奉納した菩提寺として有名である。吉川広家の時富田城に移城、そののち岩国に移封後は岩国横山に洞泉寺を建立した。

9 吉川経高墓所



新庄横路の浄慶庵の入口の参道に石碑があり、墓所はその奥まった谷間にあります。明治四十二(一九〇九)年の岩国吉川家の『新庄史跡調査報告書』には「此御塔は文政十(一八二七)年の改葬にかかり、以前は御霊屋または御廟と称し、もと谷口の山県玄蕃の墓と並んであったのを移し、明治三十六(一九〇三)年大修繕し今日の壮麗を拜するに至った。」とされています。

7 吉祥寺跡



吉祥寺跡は、小倉山山麓穴ヶ迫にあります。『国郡志下調査出帳』に「吉祥寺跡畠二成、百姓家名二テ御座候」とあります。里伝では高根県邑南町の西蓮寺に移されたと伝えられています。